



16 知行宛行状 あてがい

元龜2年(1571年)3月2日

この文書は、まやはし 厩橋(前橋)城主北條 きたじょう 高広たかひろが、白井領(現渋川市白井)の地侍長井氏に阿内・横手(現前橋市下阿内町・横手町)を所領として与えたものです。そのかわりに、利根川の渡河点であり、交通の要衝であった横手に要塞を構築させ、利根川端と周辺の村々の警護を命じた文書です。

きたじょうたかひろ 北條高広は越後国の国衆で、永禄3年(1560年)上杉謙信の関東進出後、謙信から厩橋城代に任命されましたが、永禄9年(1566年)、武田氏と北條氏ほうじょうの同盟が優勢になると上杉氏から離反し、相模国の北條氏ほうじょうに属しました。

永井明家文書 P0007 No.5

【16】 知行宛行状 あてがい

(P0007 永井明家文書 No.5)

〔読み下し文〕

五拾八貫文下阿内あうち、卅貫文横手よこて、合せて八拾八貫文の所相渡し候、一類を引き寄せ横手を普請すべし、瀬緒せぼたの用心、近辺郷中の備えそなを堅固けんこに申し付け、走り廻るべき者なり、仍つて件くだんの如しごと

〔富貴朱印〕〔北條高広〕

元龜二年 (一五七二)

三月二日

長井左京亮殿

